



3学年通信

第7号 令和8年11月1日

まじめな努力 = 楽しい時間

担当：東 秀典

今の努力が、未来の自分をつくる。

11月に入り、朝晩の冷え込みに冬の訪れを感じる季節となりました。高校生活も残りわずかとなり、皆さんにとって卒業後の生活が少しずつ現実味を帯びてきたのではないのでしょうか。

就職試験に臨んだ皆さんは、多くの方が進路を決定し、新しい生活への準備を進めていることと思います。一方、進学を目指す皆さんは、これから入試本番を迎える人も多く、不安や焦りを感じることもあるでしょう。それぞれ置かれている状況は違いますが、今、皆さんに大切にしてほしいことがあります。

1. 進路が決まった人へ

～次のステージへの準備を～

進路が決まった皆さん、本当にお疲れさまでした。これまでの努力が一つの形になったことと思います。しかし、進路が決まったことはゴールではなく、新しい生活のスタートです。就職する人は、時間を守ること、挨拶をすること、相手の話をしっかり聞くことなど、社会人としての基本を意識して生活しましょう。進学する人も、入学後に必要となる学習習慣や生活習慣を今から整えておくことが大切です。「合格したから」「就職が決まったから」と気を緩めるのではなく、卒業までの時間を次のステージへの準備期間にしてください。

2. これから受験に臨む人へ

～最後まで自分を信じる～

これから入試を迎える皆さんは、周囲の進路が決まっていく様子を見て、焦りを感じることもあるかもしれません。しかし、人にはそれぞれのペースがあり、進路が決まる時期も違います。周囲と比べる必要はありません。大切なのは、昨日の自分より一歩でも前に進むことです。苦手な分野を一つ復習する、面接の受け答えを一度練習する、志望理由をもう一度見直す。そうした小さな積み重ねが、本番での自信につながります。不安になるのは、それだけ自分の未来と真剣に向き合っている証拠でもあります。最後まで諦めず、今できることに集中していきましょう。

3. 卒業までの時間をどう過ごすか

進路が決まっている人も、これから決まる人も、全員に共通していることがあります。それは、卒業までの時間は限られているということです。高校生活最後の数か月を、ただ何となく過ごすのか、それとも自分を成長させる時間にするのか。その選択は、一日一日の過ごし方で変わります。授業を大切にす、提出物を期限までにす、周囲の人への感謝を忘れない。当たり前のことを当たり前に続ける姿勢は、これから先の人生でも必ず皆さんの力になります。

卒業式の日「このクラスで過ごせてよかった」「この仲間と一緒に頑張れてよかった」と思えるように、残された時間を大切にしていきましょう。

進路は一人ひとり違っても、皆さんがこれから歩む未来には無限の可能性がありま
す。焦らず、立ち止まらず、自分らしい一歩を踏み出してください。

☆11月（霜月）の行事予定・月訓『読書』

1	日		16	月	3 年朝礼
2	月	私学協会表彰式典	17	火	
3	火	文化の日 	18	水	試験 1 週間前
4	水		19	木	
5	木	第 75 回私学連合音楽会	20	金	計算技術検定
6	金		21	土	第一種電気工事士技能試験（下期）
7	土	学校説明会・相談会	22	日	全商ビジネス文書実務検定試験
8	日	全商ビジネス計算実務検定 英語検定（二次）名大オープン模試	23	月	勤労感謝の日 
9	月	後期生徒会選挙 身だしなみウィーク	24	火	県民ホリデー
10	火	執行部合同会	25	水	期末試験①
11	水		26	木	期末試験②
12	木	常任委員会・第 74 回私学弁論大会	27	金	期末試験③ 学校説明会準備
13	金	自動車学校説明会	28	土	学校説明会・相談会
14	土	保護者会・後援会研修会 受験対策講座	29	日	
15	日		30	月	期末試験④

☆コラム 「ブルーレイレコードが消える日」

先日、実家の両親からの依頼により、ブルーレイレコードの買い換えのために家電量販店を覗いて驚いた。以前に比べて、ブルーレイレコードの陳列コーナーの規模が大幅に縮小されていたからだ。確かに、近年、Tver、U-NEXT、Netflix などの動画配信コンテンツが広く普及し、リアルタイムで放送している地上波、BS 放送を録画して視聴するニーズは減少傾向にある。以前は、新聞の番組欄を見て、視聴したいドラマや映画を録画して視聴するのが一般的であったが、見たいときに見たい番組を配信期間中は、時間を気にすることなくいつでも視聴できる時代となった。配信されている動画は無数にあり、少しでも多くの動画に目を通すために、倍速再生で視聴する人も少なくない。

9月に日本の有名な脚本家である倉本聰さんが永眠し、追悼番組として、ドラマ「北の国から '83 冬」が再放送された。昭和の時代のドラマである。北海道の広大な大自然の中で生活する不器用でありながら実直で温かな父親とその息子・娘を中心とした人間模様を丁寧に描きあげたドラマであり、台詞の中には、見る者を惹きつける「間」であったり、台詞がないままに黙々と生活に必要な作業に打ち込む姿などが、じっくりと描かれている。しかし、令和の時代には、このドラマを倍速で鑑賞する人もいるのかと思うと少し寂しい気持ちになる。

情報化が進む今日では、疑問に感じることは、インターネットで検索したり、ChatGPT、Gemini などの AI 技術を利用することで、瞬時に答えを手にすることができる、結果にたどり着くまでの時間を待つという習慣が消えつつある。結果だけを見て満足し、結果が得られるまでのプロセスは、あまり重要視されなくなっている。仮想空間をいとも簡単に創り上げるデジタルの時代が進んでも、人間は、感じる心を持ち、実在する存在である。どんなに時代の変化が進んだとしても、人間本来の感性は、失われないことを願いたい。

高校生活も、進路が決まれば良いというものではなく、卒業までの日々を、自分自身がどのような高校生活を送ったのか、しっかりと心に刻み込む大切な時間にして欲しい。 ～3rd Grade Teacher Okubo～